

「目が見えないのは不便だけれど、不幸じゃない。柔道のおかげで、そう思えるようになりました」

名古屋大で開かれた講演会。広瀬誠さん（左）は、柔道を習う少女に語りかけた。

西尾東高校（愛知県西尾市）二年のときに突然、難治性視神経症を発症。目の前の物が見えない極度の弱視になった。「自分はどうなるのか」。将来を悲観し、障害者と一目で分かる白杖を持つことに抵抗を感じた。

その苦境を高一から始めた柔道が救ってくれた。柔道を通じ、障害を苦にせずに楽しむ先輩と出会い、白杖への迷いは消えた。

県立名古屋盲学校（名古屋市千種区）の教員になっても続け、二〇〇四年のアテネ・

柔道がくれた「幸せ」



高校生と練習に励む広瀬さん（左）一名、名古屋市千種区の名古屋大柔道場で

き、うろたえる両親を見て「こんなに大切に思ってくれるんだ」と胸が熱くなった。

盲学校で教える女子生徒も、広瀬さんの勧めで名大柔道部に通い始めた。自分に続くパラリンピック出場も夢ではない。「先生や先輩にももらった物を下に返す番」と、成長を楽しみにする。

柔道の創始者、嘉納治五郎は「精力善用 自他共栄」という言葉を残した。昇段試験のためにかつて丸暗記した言葉が最近、心に響くようになった。

自分さえ良ければという個人主義や、勝ち組、負け組という分断がある。それは「感がはびこる時代」「感謝する心」。稽古相手や師匠がいなければ、強くなれない。障害があるから、支えてくれる人のありがたさに気が付いた。発病したとい

パラリンピック視覚障害者柔道60kg以下級で銀メダルを獲得。昨年、の北京大会でも七位に

入賞した。「好きなこととだから『どうせなら楽しもう』と努力できた」と振り返る。

もう一つ「幸せ」と思える自分に導いたものがある。それは「感謝する心」。稽古相手や師匠がいなければ、強くなれない。障害があるから、支えてくれる人のありがたさに気が付いた。発病したとい

虹

もう一つ「幸せ」と思える自分に導いたものがある。それは「感謝する心」。稽古相手や師匠がいなければ、強くなれない。障害があるから、支えてくれる人のありがたさに気が付いた。発病したとい